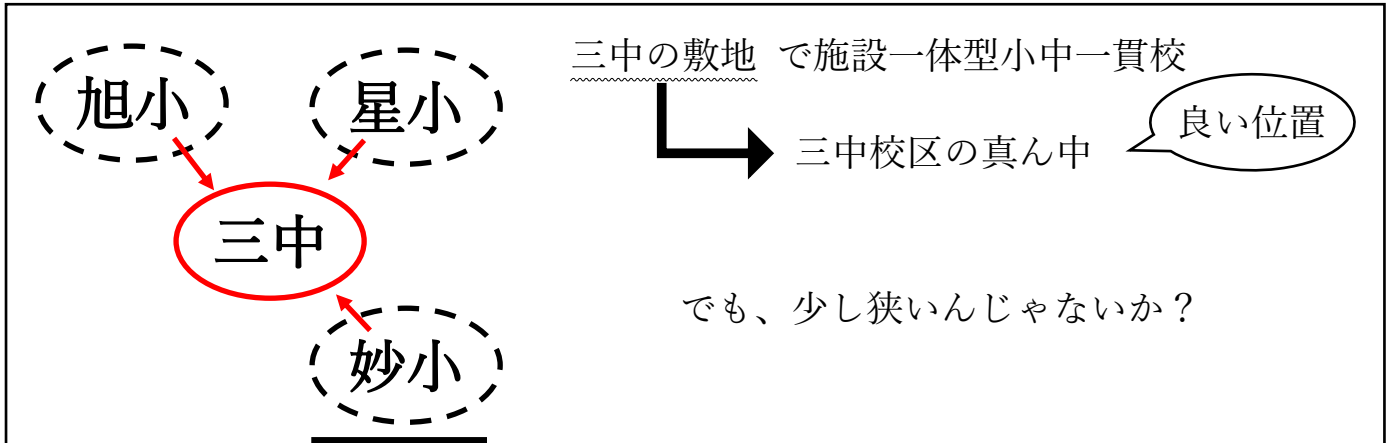


第3回 第三中学校区地域懇談会資料

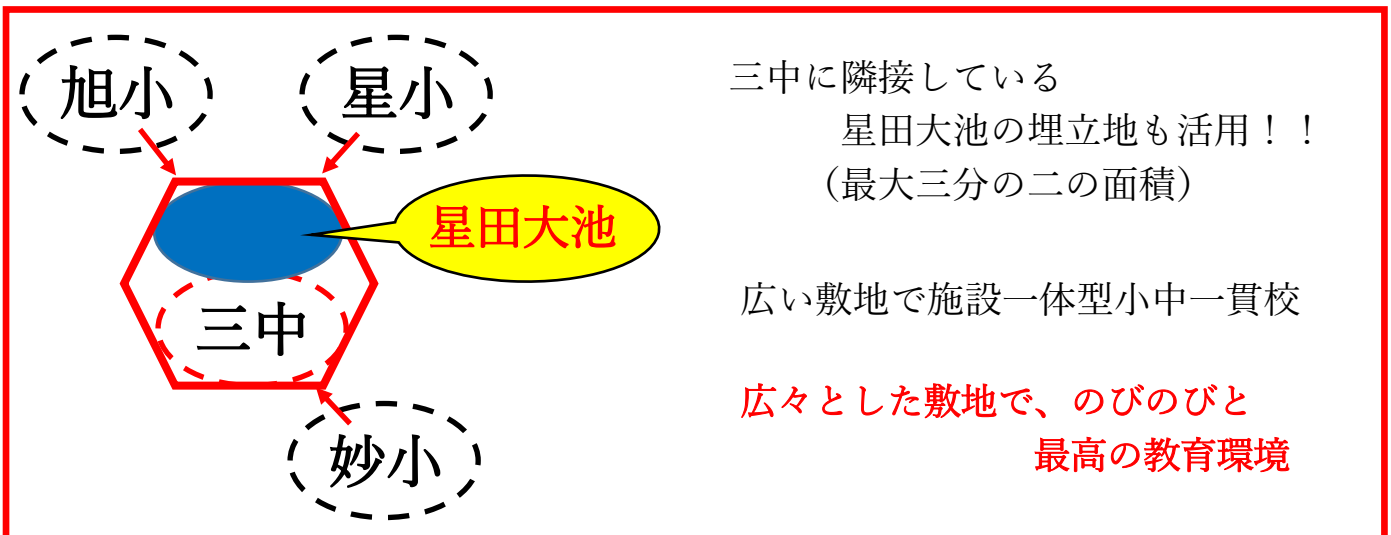
(10年から15年後のあるべき姿)

適正配置案の追加として、「小中学校統合配置案(15の2)」を提案

今の 小中学校統合案(15の2)



今回提案する 小中学校統合案(15の2)



【 提案理由 】

- ① 第三中学校区の子どもたちに最高の教育環境を
- ② 地域の活力を取り戻し、地域の絆を深める
- ③ 大切な溜池を地域の宝である子どもたちの教育の場として有効活用

① 第三中学校区の子どもたちに最高の教育環境を

- 少子高齢化が進み、各小学校が6学級になるほど、児童生徒数が大幅に減少
- 3小の統合により長期的に、適正な学校規模が確保できる
- 小中一貫教育の推進は国の動向であり、近隣他市でも施設一体型小中一貫校が建設されている
- 施設一体型小中一貫校の素晴らしさは、国の調査結果等でも表れている。また、この懇談会で視察に行かせてもらった、京都市の施設一体型小中一貫校での説明や質疑応答においても、素晴らしいものだと感じた。
 - ◆ 凌風小中学校 見学報告書 5ページ 「Q1.」
 - ◆ 向島秀蓮小中学校 見学報告書 5, 6ページ 「Q5.」 など
- 視察では、教育環境は素晴らしいが、敷地の狭さに課題があるということだったが、今回提案する配置案（15の2）では、敷地も広々としたものになる。
- 小中一貫校が地域のコミュニティスクールとなり特色ある学校づくりを進めていくことができる。
- 施設一体型小中一貫校の新設まで小規模の改修で対応でき、維持管理費が減額できる。
- 一中校区の事例の良いところは継承し、一中校区をモデルケースとして検証しつつ、三中校区の具体的な課題の解決策を検討する時間は十分にある。

② 地域の活力を取り戻し、地域の絆を深める

- 地域の子どもは地域が連携し、地域が一体となって見守り育てる。
- 3小1中が統合し、施設一体型小中一貫校が新設されることで、地域コミュニティ、福祉、教育、まちづくりなど、あらゆる分野で3中校区全体が連携し、地域の支え合い・助け合いによる地域福祉の推進や、国の動きである「我が事・丸ごと」地域共生社会の実践を目指すことができる。
- 地域が一体となり、地域の課題や高齢者社会の問題などを包括的に支援できる。

③ 大切な溜池を地域の宝である子どもたちの教育の場として有効活用

星田駅北の大規模な土地区画整理事業により星田大池の利水地権者が少なくなり、先人が大切に守ってきた、ため池の役割（農業用水など）が失われてきている。星田大池は、大字星田財産区の所有となっており、未来の学校用地としてということであれば、地域の理解も得やすいと思われる。

また、星田大池の麓には住宅が密集していることから、自然災害に対処できる安全対策が必要である。学校用地として活用するために、大池を埋め立てれば、大池の麓地域の安全対策にもつながる。

●溜池を子どもたちの教育の場として利用することは地域財産の最善の有効活用



最後に

今回提案する配置案（15の2）では、星田大池の管理団体である所有者の大字星田財産区、水利組合の星田用水組合との協議が必須ではありますが、これからの子どもたちに最高の教育環境を整備するため、そして地域の活力を取り戻し、絆を深めるため、この配置案を提案します。